母子間の心理的距離測定の試み（Ⅱ）
(1) 乳幼児の気質と母親の心理的距離との関係

山下　文雄（久留米大学小児科）
橋爪　広好（橋爪小児科医院）
板井　修一（福岡県精神衛生センター）
七浦　久子（東筑紫短期大学）
秋山　俊夫（福岡教育大学）

1　はじめに

子どもは誕生の時点からすでに個性を発揮する。母子相互作用の場において，子どもの気質の特徴が母親の子どもへの働きかけに影響を与えているのではないか，その事は，子どもに対する母親の心理的距離の差異として測定できるのではないかと予測した。そこで，日常の乳幼児健診の際に子どもの気質を調査し，また子どもに対する母親の心理的距離を投影法で測定したので，結果を報告する。

2　調査方法

(1) 調査対象は4カ月，7カ月，1歳半，3歳児健診に訪れた乳幼児とその母親である。

(2) 気質調査〔表1(1)，(2)〕　Careyが作成した乳幼児気質質問紙を使用し，子どもの気質のタイプ分けはCareyの方法に準じ，扱い易い子とその亜型，扱いにくい子とその亜型，何をするにも時間のかかる子の5グループに分類した。今回は例数不足のため，扱い易い子とその亜型ならびに扱いにくい子とその亜型の2グループについて比較検討した。

(3) 子どもに対する母親の心理的距離の測定(図1,2)

秋山，板井らが作成した方法を用いて投影法で測定した。子どもや母親の状態の良し悪しの場面(2)(3)(4)(5)，子どもと母親の状態の組合せによる場面(6)(7)(8)(9)およびニュートラルな場面(1)，計9場面を設定した。子どもに対する母親の心理的距離は中央の子どもと母親シールとの距離を測定して求めた。

(4) 結果の分析はニュートラルな場面に対する各場面の距離の比率で算出し，年齢段階ごとに扱い易い子と扱いにくい子の2グループについて比較検討した。

3　結　　果

(1) 図3―(1)　4～6カ月児では子どもに対する母親の心理的距離は，扱い易い子との方が大きい距離をとる傾向がみられるが，有意差はなかった。

(2) 図3―(2)　子どもが7カ月～1歳未満に達すると対人関係が発達し，人見知りが出現する。扱いにくい子は人見知りが強く出現する子が多く，母親は少し手こずるようになる。この時期の子どもに対する母親の心理的距離は，扱いにくい子との方が大きい距離をとるようになる。すなわち，子どもの状態が良い場面(3)(8)では，母親は大きい距離をとり，悪い場面(2)(6)(7)では母親は自分の状態の良し(7)，悪し(6)とは関係なく子どもに近づく。

(3) 図3―(3)　子どもが1～2歳では母親の心理的距離は7カ月児の場合とほぼ同じような傾向である。

(4)図3―(4)　子どもが3歳になり，自己主張がはっきりしてくると，扱いにくい子に対する母親の心理的距離はかなり大きな距離をとるようになる。すなわち，子どもの状態が良い場面(3)(8)(9)では母親は扱いにくい子とかなり大きな距離をとり，母親の状態の良し(9)，悪し(8)はあまり影響を与えない。子どもの状態が悪い場面(2)(6)(7)では母親は子どもに近づくが，母親の状態も悪い場面(6)では，もうあまり子どもに近づかなくなる。母親の状態が悪い場面(4)(8)では母親はかなり大きな距離をとる。

4　ま　と　め

(1) 社会的微笑が出現する4カ月児の段階では気質の特徴がはっきり現われずに，母子相互作用の場においても，気質の個体差による影響は比較的少い。人見知りが出はじめる7カ月児，さらに自己主張が強くなる3

歳児になると，気質の特徴が次第に鮮明化し，母親の接し方にも影響を及ぼすようになる。すなわち，子どもに対する母親の心理的距離は扱い易い子よりも扱いにくい子との方が，大きい距離をとり，その傾向は3歳児で強くみられた。

(2) 扱いにくい子とうまく付き合うには，忍耐強さ，一貫性，寛容さ，臨機応変な対応が必要と思われる。客観的に扱いにくい子と評価されても，母親がその子とうまく付き合っていれば，母親にとってその子は扱いにくい子とは認知されない。母子相互作用の場において，母親が扱いにくい子と大きな距離をとっているのは拒否的感情の表われと考えるよりは，その子とうまく調和を保っている結果，そうなったのであって，生活の知恵ではないかと思われる。

(3) 今回，乳幼児の生物学的個体差ともいえる気質の特徴が，子どもに対する母親の心理的距離にどのような影響を与えるかを，横断的に観察した。今後，個々の症例について子どもの気質の個体差が母親の育児行動にどのような影響を及ぼすかを，母子相互作用の観点から，心理的距離を尺度として，縦断的に検討して行く予定である。

表1—(1) easy/difficult Child の判定基準

気質の特徴	判定 easy child	判定 diff. child
活動水準		
周期性	← 規則的	不規則 →
接近・回避	← 接近	回避 →
順応性	← 適応的	不適応 →
反応の強度	← 弱い	強い →

表1—(2) easy/difficult Child の判定基準

気質の特徴	判定 easy child	判定 diff. czild
気分の質	← 陽性	陰性 →
注意の範囲と持続性		
散漫性		
感受性の閾値		

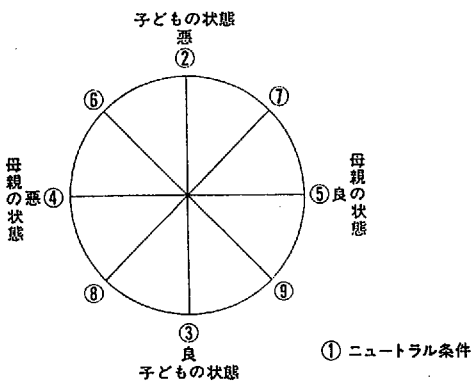

図1 子どもの状態・母親の状態による条件設定

この室の中央にいるのは，あなたの赤ん坊です。赤ん坊は，気げんが悪く，激しく泣いています。あなたは，どこにいたいと思いますか。その場所に，母親カードをはりつけてください。

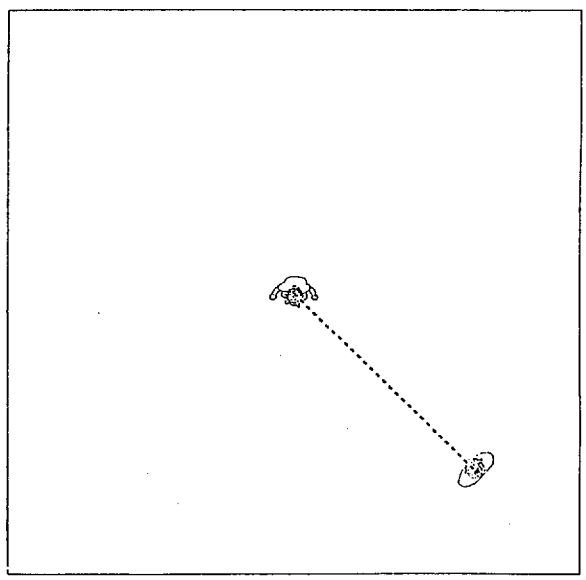

図2 子どもに対する母親の心理的距離の測定

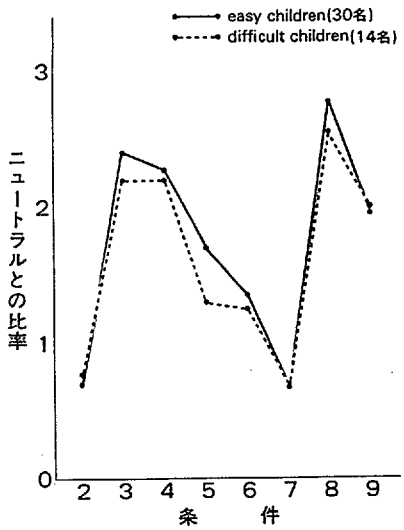

図3—(1) 子どもに対する母親の心理的距離
（4～6カ月児）

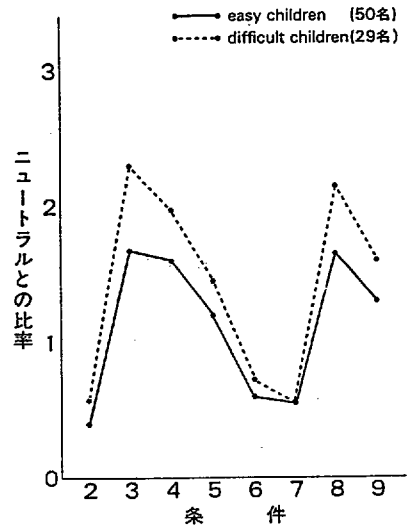

図3—(2) 子どもに対する母親の心理的距離
（7カ月～1歳未満児）

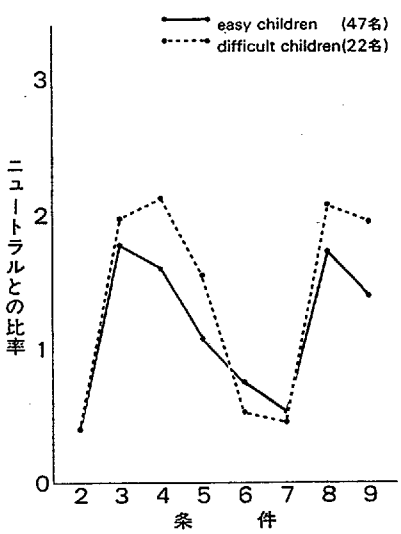

図3—(3) 子どもに対する母親の心理的距離
（1～2歳未満児）

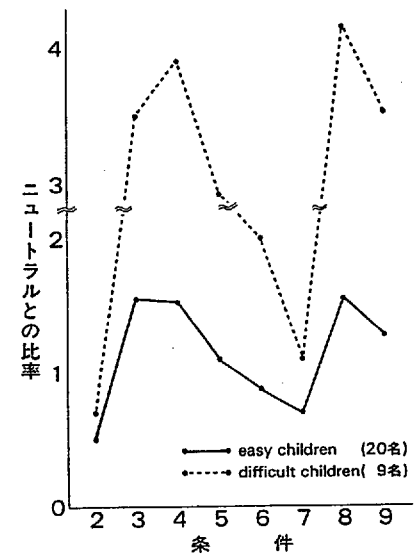

図3—(4) 子どもに対する母親の心理的距離
（2～4歳未満児）

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1 はじめに

子どもは誕生の時点からすでに個性を発揮する。母子相互作用の場において,子どもの気質の特徴が母親の子どもへの働きかけに影響を与えているのではないか,その事は,子どもに対する母親の心理的距離の差異として測定できるのではないかと予測した。そこで,日常の乳幼児健診の際に子どもの気質を調査し,また子どもに対する母親の心理的距離を投影法で測定したので,結果を報告する。